

令和2年7月7日

報道関係者各位

大阪府 茨木市

新型コロナウイルス感染症禍に配慮した新たな芸術祭
「茨木映像芸術祭」を開催します

茨木映像芸術祭実行委員会（茨木市、茨木美術協会、茨木市文化振興財団）は、茨木映像芸術祭（Ibaraki Film Art Festival）を開催します。

茨木市では、公募作品の搬入・搬出の過程で「3つの密」が避けられないことから、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、例年開催している美術展、現代美術展、写真展の開催を見送ることを決定しました。こうした中、モニターで制作し、モニターで審査し、モニターで鑑賞することによって、密を最大限に回避し、新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮しながら実施できる映像作品のコンクールを新たに企画しました。

映像作品は実体のない「光」の作品であることから、太陽から地球に光が届くまでの時間である8分19秒以内の映像作品を募集し、応募資格は個人・グループ・地域・プロ・アマチュアを問いません。募集期間は7月7日から12月18日まで。（必着）

審査員は、造形作家で茨木美術協会会長の木村光佑氏、京都市立芸術大学教授の加須屋明子氏、吉本芸人でアートプランナーのおかけんた氏、映像作家・美術家の林勇氣氏の4名です。

賞および賞金は、グランプリ30万円（1作品）、準グランプリ20万円（1作品）、特別賞10万円（2作品）のほか、審査員が選考する入選作品（15作品程度）から、後に公募する市民審査員によって決定する市民審査賞7万円（1作品）や、you tubeに投稿し獲得したグッドの数で決定するグッド賞3万円（1作品）などのユニークな賞も設け、市民の積極的な鑑賞を促します。

コロナ禍に対応して企画した本芸術祭を、ぜひ取材いただきますようお願いいたします。

【問合せ先】

文化振興課長 辻田 新一
電話：072-620-1810

